

令和4年度 第2回宮崎県教育振興基本計画策定懇話会 議事概要（各委員から出された意見の概要）

日時：令和4年10月31日 午後2時から午後3時30分

○ 特別支援教育の推進

- ・ 共生社会については、10年前よりもいい方向になってきている。今後も、学校と保護者が連携を図っていくことが大切である。

○ 一人一人を大切にす教育の推進

- ・ 現行計画では、「いじめ及び不登校・高等学校等中途退学の防止」であったが、今回の骨子案では、「いじめ及び不登校・高等学校等中途退学の対応の充実」となっており、子ども一人一人に対する学びを保障することを考えた施策の内容となっている。

○ 確かな学力を育む教育の推進

- ・ どのような学力向上を目指していくのかということをも明確に示していく必要があるのではないか。
- ・ 何をもって宮崎で学んだ子どもたちとするのかを明確にすると、現場の先生方をはじめ、子どもたちもこういう勉強をしたらいいということにつながるのではないか考える。
- ・ 「誰一人取り残さない」という言葉は、「全ての人の可能性を引き出す学び」という点が重要だと考えるが、「可能性を引き出す」という部分については、「確かな学力」との関連もあると考える。
- ・ 学力向上やキャリア教育などの目指すものが、校種毎に分けられるのではなく、目指すもので分けることで、全ての子どもが対象になるということが示されるのではないか。
- ・ 「確かな学力」と示してもよいのだが、県教育委員会として学力をどう捉えるのかを明記するとありがたい。
- ・ 「確かな学力」というキーワードを残すのか、検討する時期に来ているのではないか。
- ・ 次期計画では、「確かな学力」とは、全国学力・学習状況調査だけではないということを出すと、社会で必要な力や自分な学ぶ力なども大切であることを伝えられると考える。

○ 教育の情報化推進

- ・ 教育の情報化の推進について、「新しい教育様式の確立」という言葉が漠然としているため、例えば、GIGAスクール構想の推進など具体的なキーワードが見えるように書かれた方がよいと考える。

○ 学齢期の体力・健康づくりの推進

- ・ あと3年で土日の部活動を地域社会へ移行していく計画となっている。部活動の地域移行についても明記する必要がある。

○ 生涯学習の推進

- ・ 大人の学び直しについても触れてもらえるとありがたい。

○ 教職員の資質向上

- ・ 教職員の資質向上については、個人の資質向上と組織全体の組織力アップの2つは両輪であるため、その点を明記できるとよい。

○ 安全・安心な教育環境の整備・充実

- ・ 施策17の「(1) 学校安全体制の整備」と「(2) 安全・安心な学校施設の整備」の違いが分かりにくいので、違いが明確に分かるような表現にした方よい。

○ 地域と学校の連携・協働の推進

- ・ 「学校を核とした地域づくり」や「地域を核とした学校づくり」については、学校と地域の両方が学校づくり、地域づくりの主体となるような形になるとよい。
- ・ PTAの立場から考えると、施策18「地域と学校の連携・協働の推進」については、地域と学校の中に、家庭も含まれていることがあるべき姿だと考える。

○ その他

- ・ 国が策定している教育振興基本計画で使われている文言と、県の教育振興基本計画の文言については、合わせられるものについては合わせた方がよい。
- ・ 子どもの教育に対する教育振興基本計画であるが、どうしても大人で話し合っただけで済んでしまうため、子どもの声をもう少し盛り込めるようにできないだろうか。
- ・ 学びの場に関わる方々の意見を取り入れ、反映できるような仕組みができるとよい。
- ・ 施策や施策の内容を見た時に、なかなか内容が伝わりにくいため、施策の方向性などが分かるようにキーワードを変更するとよい。
- ・ 将来、社会に出て生きていくためには、学校で学ぶ知識や、経験などが必要だが、生きていくための知恵や工夫などについても必要である理由を、保護者や子どもたちに伝えていく場を増やす必要がある。
- ・ 施策や施策の内容の文言が抽象的なところがあるため、具体的に表現できるとよい。
- ・ 学校教育の中で、礼法指導や資格取得などの将来生きて働く力を身に付けさせていくことも必要である。